

## 第2章 西宮市の文化財の概要

西宮市内には多様な文化財が所在しています。本地域計画で対象とする文化財の概要を記載します。

### 第1節 文化財等の概要

#### 1. 指定等文化財の状況

西宮市内の指定等文化財の件数は、以下のとおりです。（令和3年3月末現在）

表3 市内の指定等文化財件数

区 分		国			県	市	合計
		国宝	重文	登録	指定	指定	
有形文化財	建造物	0	3	16	2	13	34
	絵 画	0	7	0	1	4	12
	彫 刻	0	8	0	0	3	11
	工芸品	(2)	16	0	0	1	17
	書 跡	0	3	0	0	0	3
	古文書	0	0	0	1	7	8
	考古資料	0	22	0	9	6	37
	歴史資料	0	0	0	1	4	5
無形文化財		0	1	0	1	0	2
民俗文化財	有形民俗	0	0	1	1	4	6
	無形民俗	0	0	0	0	2	2
記念物	遺跡（史跡）	0	2	0	0	6	8
	名勝地（名勝）	0	0	0	0	0	0
	動物・植物・地質鉱物 （天然記念物）	0	0	0	7	5	12
文化的景観		0	0	0	0	0	0
伝統的建造物群		0	0	0	0	0	0
合 計		(2)	62	17	23	55	157

※1 国宝は重要文化財の内数を（ ）で示しています。

※2 建造物・古文書・有形民俗文化財・歴史資料の中の一部物件で、県指定・市指定となっているものがあり、それぞれの区分の件数の中で数えています。

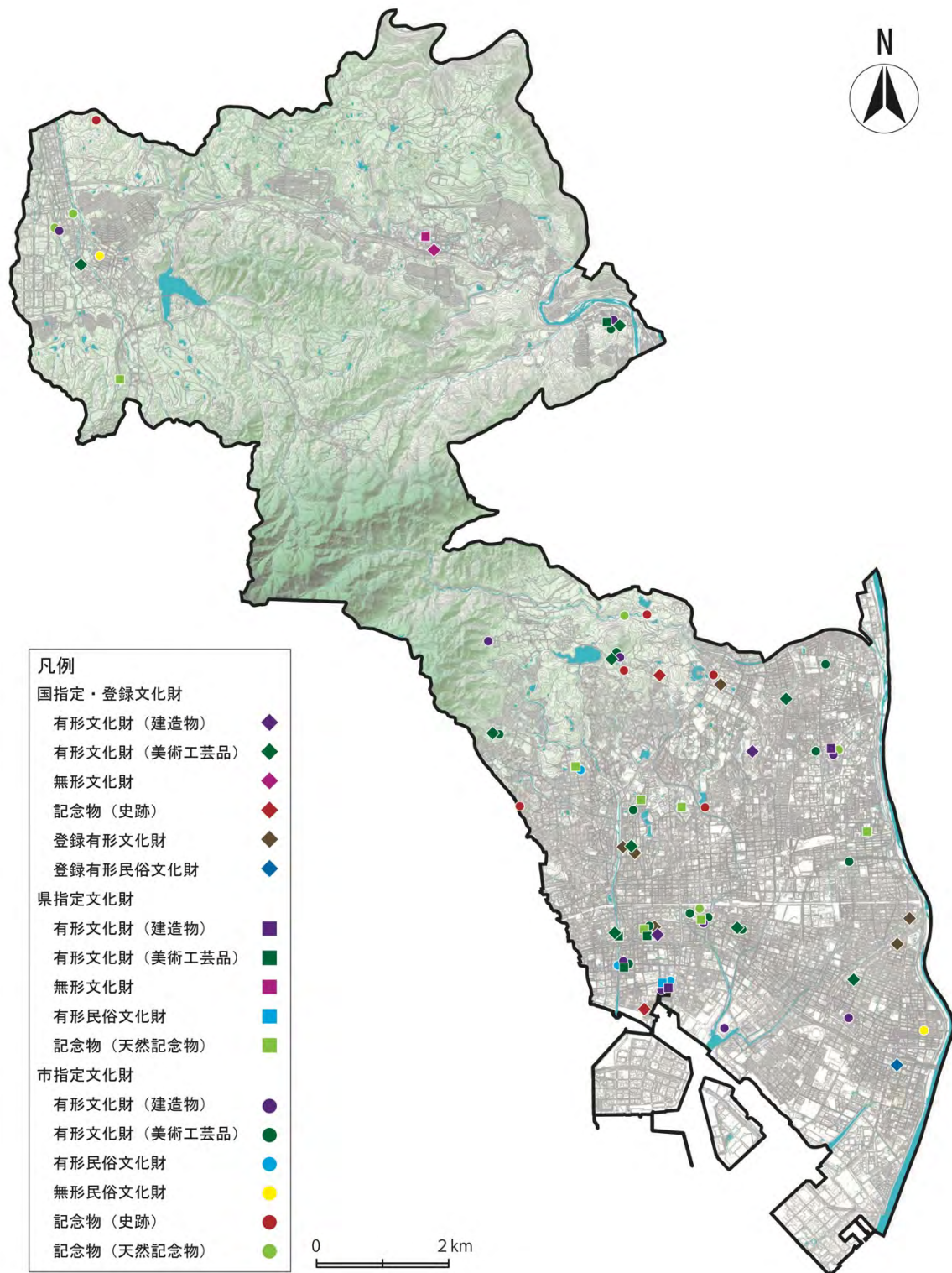


図 26 指定等文化財所在状況

## 2. 地域別文化財所在状況の概要

本市では、これまでの調査により指定等文化財 157 件、未指定文化財 1,407 件、あわせて 1,564 件を把握しています。

表 4 未指定文化財所在件数（時代区分別・分野別 令和 3 年 8 月 31 日時点）

地域	時代区分	有形文化財	美術工芸品								無形文化財	民俗文化財	有形民俗	無形民俗	記念物	遺跡	名勝地	動物植物地質物	文化的景観	伝統的建造物群	埋蔵文化財	その他	計	
			建築物	美術工芸品	絵画	彫刻	工芸品	書跡典籍	古文書	考古資料														歴史資料
市内全域	先史	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	30	0	31	
	古代	3	1	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	0	65	0	71	
	中世	23	10	13	0	4	0	2	4	0	3	0	2	0	2	1	0	1	0	0	4	0	30	
	近世	94	5	89	6	0	0	1	34	0	48	1	40	36	4	40	39	1	0	0	3	3	181	
	近代	534	496	38	0	0	0	0	5	0	33	0	105	48	57	27	27	0	0	0	1	0	667	
	その他	36	6	30	0	2	0	0	1	0	27	0	180	76	104	148	145	2	1	1	3	0	59	427
	合計	690	518	172	6	8	0	3	44	0	111	1	327	160	167	220	212	7	1	1	3	103	62	1407

※未指定文化財の一覧及び地区別の一覧は資料編に掲載

※埋蔵文化財は遺跡所在地の件数

※分野の「その他」は文化財の類型にあてはまらないもの

※時代区分の「その他」は各時代区分に当てはめることが難しいもの

各地区別文化財所在状況は次のとおりです。（ ）内は件数

### ①西宮北西地域

西宮北西地域では、建造物（58）、有形民俗（26）などが所在しています。建造物は近代和風調査で把握された住宅が多く、有形民俗は越木岩神社のおかげ踊り図絵馬〔市指定〕などで、史跡老松古墳〔市指定〕なども所在します。この地域で特筆されるのは美術工芸品（特に工芸品等）について、国宝・重要文化財等多数所蔵する（公財）黒川古文化研究所が所在しています。

### ②西宮北東地域

西宮北東地域では、旧山本家住宅〔国登録〕、浦家住宅〔国登録〕をはじめとする建造物（35）、具足塚古墳〔市指定〕、広田神社、名次神社、満地谷層の植物遺体包含層〔県指定〕など記念物（31）などが所在しています。

### ③西宮南西地域

西宮南西地域では、西宮神社の表大門・同大練塀〔各国重文〕など建造物（54）のほか、美術工芸品（116）、有形民俗（70）、記念物（40）など文化財が多数所在しています。酒どころとして知られる西宮は灘五郷の西宮郷にあたり、白鹿記念酒造博物館には灘の酒造用具〔県・市指定有形民俗〕や本蔵などがあります。本地域と西宮北西・西宮北東を流れる夙川は、六甲山麓の天井川で、河畔の松・桜、橋梁、周囲のまち並みなどにより文化的景観を構成しています。流域は遺跡、歴史的建造物のほか、博物館・美術館が点在する文化財が集中しています。

#### ④西宮南東地域

西宮南東地域は、中国街道が通り、今津は灘五郷の今津郷になります。今津灯台〔市指定〕や今津小学校六角堂などの建造物（31）が所在し、無形民俗（10）などが所在しています。

#### ⑤鳴尾地域

鳴尾地域では、武庫川女子大学の近代衣生活資料〔国登録〕、岡太神社一時上臈〔市指定〕など民俗文化財（32）、建造物（135）が所在します。建造物の大部分は近代和風建築調査で確認されたものです。武庫川の支流であった枝川と申川の河川跡は、近代郊外型娯楽・住宅地として開発され、「甲子園」が形成されました。大正13年（1924）に竣工した甲子園球場をはじめ、近代建築が点在しています。

#### ⑥瓦木地域

瓦木地域は、旧瓦木村にあたり、尼崎藩大庄屋を務めた岡本家が所在し、岡本家文書〔市指定〕が知られています。そのほか建造物（33）、無形民俗（17）、有形民俗（11）などが所在します。

#### ⑦甲東地域

甲東地域は、旧甲東村にあたります。上ヶ原周辺に神戸女学院〔国重文〕、関西学院〔国登録〕等の近代建築群が所在し、関西学院構内古墳〔市指定〕や上ヶ原浄水場古墳などが所在しています。市民に親しまれる甲山は甲東に位置し、神呪寺の文化財群（如意輪観音坐像〔国重文〕、仁王門〔市指定〕など）、甲山湿原〔市指定〕、徳川大坂城石垣石丁場跡東六甲石丁場跡〔国指定〕など多数の文化財が集中しています。これらを含む建造物（72）、歴史資料（25）、無形民俗（29）、有形民俗（28）、遺跡（35）などが所在します。

#### ⑧塩瀬地域

塩瀬地域は、西宮市の北部、旧塩瀬村にあたります。この地域では建造物（63）、無形民俗（22）などが所在します。生瀬では昭和40年代ごろまで江戸時代の宿駅のたたずまいを残していた民家やまち並み、浄橋寺の文化財群、名塩では名塩紙〔国重無形〕〔県指定〕の無形文化財が所在します。

#### ⑨山口地域

山口地域は、本市の北部の旧山口村にあたります。公智神社神輿殿〔市指定〕、明徳寺阿弥陀如来立像〔国重文〕など有形文化財ほか、山口袖下踊り〔市指定〕、公智神社社叢〔市指定〕、モリアオガエル生息地、奇勝で知られる蓬莱峡、青石古墳〔市指定〕など、多種多様な文化財が豊かな自然環境の中で所在している特徴ある地域となっています。建造物（71）、無形民俗（39）、歴史資料（15）などが所在します。

#### ⑩広域

市内には京都・大阪と西国地方結ぶ西国街道や中国街道、有馬や丹波をつなぐ有馬街道・丹波街道などがとおり、西宮や生瀬は宿駅となっていました。また夙川や夙川公園（前掲）など複数地域にかかる文化財も所在しています。

### 3. 類型ごとの文化財の概要

#### (1) 有形文化財

##### ①建造物

社寺建築として公智神社神輿殿〔市指定〕、西宮神社表大門〔国重文〕、同大練塀〔国重文〕、八幡神社本殿〔県指定〕、神呪寺仁王門〔市指定〕、海清寺三門〔市指定〕が指定されています。江戸時代に江戸積み下り酒を積み出した今津港の今津灯台〔市指定〕も現役最古の木造灯台として特徴的です。近代建築では旧甲子園ホテル（武庫川女子大学甲子園会館）〔国登録〕、神戸女学院〔国重文〕、関西学院大学時計台〔国登録〕のほか、明治の洋風建築である旧辰馬喜十郎住宅〔県市指定〕、松山大学温山記念館〔国登録〕、浦家住宅〔国登録〕等住宅建築が所在しています。

未指定のものでは、武庫大橋などの橋梁や、砂防堰堤、甲子園球場など近代化遺産として注目されるもののほか、北部には茅葺き民家などが所在しています。



図 27 西宮神社表大門

##### ②美術工芸品

美術工芸品のうち、多数が寺社所在あるいは博物館等施設に所蔵されています。彫刻では神呪寺の如意輪観音坐像を含む4件、昌林寺2件、浄橋寺、明德寺各1件の仏像が明治～大正期の比較的早い時期に国重要文化財に指定されています。その他、絵画や工芸品の指定文化財の多くが（公財）黒川古文化研究所・（公財）辰馬考古資料館等の収蔵資料によるものです。

古文書では、尼崎藩大庄屋の岡本家文書〔市指定〕や下大市文書〔市指定〕、鳥飼家文書〔市指定〕などの地方文書や、宿駅や街道の様子を記す浄橋寺文書〔市指定〕、桜戸雑話〔市指定〕や西宮神社御社用日記〔県市指定〕は江戸時代の西宮の町を知る主要な資料です。また歴史資料である如意庵過去帳〔市指定〕や慶長十年摂津国絵図〔県・市指定〕も、近世の西宮と周囲の様相を伝えています。考古資料では、辰馬考古資料館の銅鐸〔国重文・県指定〕や高畑町遺跡出土木製品〔市指定〕、具足塚古墳出土品〔市指定〕などがあり、考古小録〔市指定〕などの記録も含まれています。こうした地方指定の古文書、歴史資料、考古資料のほとんどが、西宮市立郷土資料館で保管されています。



図 28 岡本家文書

#### (2) 無形文化財

無形文化財では、江戸時代以前から続く、名塩雁皮紙〔国指定〕、名塩紙技術〔県指定〕があります。その他、地域に受け継がれた歌や踊りなど無形民俗を含む文化財が所在し、現在把握に務めています。また、伝統芸能では、西宮市内の能楽堂などで伝統芸能が公演されています。また西宮神社のえびすかきは明治に途絶えてしまいましたが、その復興に取り組んでいます。

### (3) 民俗文化財

指定等文化財では、無形民俗文化財の山口袖下踊り〔市指定〕、岡太神社一時上臈〔市指定〕、有形民俗文化財の灘の酒造道具・桶樽作り道具〔県・市指定〕、越木岩神社おかげ踊り図絵馬〔市指定〕、西宮の漁労用具〔市指定〕があります。本市・神戸市の広域にわたるものとして、兵庫県の酒造習俗〔国記録選択〕、灘五郷・酒造り唄〔国記録選択〕等もあります。これらのうち、本市の特産品である酒づくりに関する文化財は、日本遺産「伊丹諸白」と「灘の生一本」下り酒が生んだ名醸地、伊丹と灘五郷の構成文化財となっています。未指定文化財では、市内各所にだんじりを巡行するまつりや講なども行われています。



図 29 山口袖下踊り

### (4) 記念物

遺跡では指定史跡として、西宮砲台〔国指定〕、大坂城石垣石丁場跡東六甲石丁場跡〔国指定〕のほか、具足塚古墳〔市指定〕、関西学院構内古墳〔市指定〕などの古墳があります。

植物では天然記念物として、神社社叢の西宮神社社叢〔県指定〕、日野神社社叢〔県指定〕、越木岩神社社叢林〔県指定〕、公智神社社叢〔市指定〕、巨木では、海清寺の大クス〔県指定〕、山口の大カヤ〔県指定〕、ほか市指定の3件、広田神社のコバノミツバツツジ群落が県・市指定となっています。社叢はクスやカシ、シイ等常緑広葉樹を高木層とし、場所によってはクロガネモチやヒメユズリハなどが加わります。甲山湿原〔市指定〕は、かつて六甲山地域に多く点在した湿原のひとつで、ヌマガヤ-チゴザサ群落の暖地性湿原です。また、氷期の様相を伝える満地谷層の植物遺体包含層〔県指定〕も所在しています。



図 30 西宮神社社叢

### (5) 伝統的建造物群

本市内では、伝統的建造物群として指定・登録・選定されている箇所はありません。『西宮の民家』の調査時点では、江戸時代の宿駅の面影をのこす地域として生瀬を取り上げ、同じく北部の名塩・山口地域の民家などが調査対象となりました。

### (6) 文化的景観

本市内では、文化的景観として指定・選定されている箇所はありません。そのなかで夙川は長さ7kmほどの長さでありながら高低差が500mを超え、洪水のたびに六甲山地の花崗岩を削り下流に運び天井川となっています。江戸時代には急流を生かした水車精米も行われてきました。夙川公園には松林・桜があり、橋梁や周囲の建造物など一体となった景観を構成しています。このほか、上ヶ原、甲子園など近代以降の娯楽施設や住宅開発により生み出された景観や、西宮神社など社寺の建物・社叢・その周辺で構成される景観、山口地域などの農村景観などは、本市にとって文化的景観と捉えることができます。

## (7) 埋蔵文化財

西宮の古代の歴史は、仁川五ヶ山遺跡や仁川高台遺跡、越水山遺跡などの弥生時代の集落跡や、津門地域の前方後円墳、八十塚古墳群などが市域の主要な遺跡として取り上げられてきました。その一方、古墳時代の集落の跡や奈良時代・平安時代の西宮の様子は判然とせず、遺跡の広がりや継続性については、わかりませんでした。そうしたなか、阪神・淡路大震災からの復旧事業を契機に、本市の特に南部地域では、発掘調査が増加したため、多くの遺跡がみつかりました。北口町遺跡や高木西町遺跡では、既知の仁川五ヶ山遺跡や越水山遺跡よりも古い時期の弥生時代の集落跡がみつかり、西宮に人びとが定着した時期を推定する資料となっています。高畑町遺跡では、古墳時代の竪穴住居跡のほか、農具や建築部材が多く出土しており、これらの資料から当時の生活の様子が明らかになりつつあります。また、高畑町遺跡や津門大塚町遺跡では、奈良時代や平安時代の大型井戸や倉庫と推定できる掘立柱建物跡などもみつかり、墨書土器や重圈文軒丸瓦など、古代官衙に関連するような遺物が出土しています。既知の遺跡では、西宮の町の起源として位置づけられる西宮神社社頭遺跡では、発掘調査の増加に伴い、室町時代から江戸時代にかけての町の跡が確認され、遺跡の広がりを面的に捉えています。近年、発掘調査により西宮地域の歴史の変遷を知る重要な発見が相次いでいます。本市域には、現在 107 カ所の周知の埋蔵文化財包蔵地があります。これらは遺跡の性格が不明な散布地を除くと、古墳と集落跡が多くを占めますが、徳川大坂城東六甲採石場や酒蔵跡が生産遺跡として位置づけられているなどの特徴があります。

## 第2節 市民が大切にしたいもの（アンケート調査から）

令和3年2月に実施したアンケートの市民が大切に思うもの（マイ文化財）によると、景観、建造物、交通、河川、古社寺、記念碑、伝統産業、公園、街道、その他が挙げられています。景観として、甲山の遠景・近景、桜の名所としてしられる夙川周辺の夙川教会や橋梁、桜・松、河川公園などが一体となって挙げられています。また関西学院や神戸女学院のヴォーリスに代表される近代建築、甲子園球場なども挙げられる他、地域で行われている地蔵盆や伝統産業である酒関係も含まれています。

（アンケート自由記述欄から）

場所・神社仏閣	熊野神社（氏神・森）／甲山神呪寺／夙川の教会／甲子園／北郷公園／甲子園浜／甲山森林公園（緑ゆたかな）／津門の入り海の痕跡／甲山／ガーデンズ（球場跡）
建物	茅葺きの民家（北部）／武庫川中高にある建物／阪神間モダニズム建造物／旧甲子園ホテル／ヴォーリス作品（関学・女学院）／甲子園球場／武庫大橋／今津灯台／西宮浜の灯台／神呪寺仁王門／夙川にかかる「こほろぎはし」／樋の口町のトンネル（レンガ）
道	夙川沿いの／酒蔵通り／今津の路地／名塩の路地と坂道
自然	武庫川河川敷の自然／夙川の桜・松
行事	地蔵盆
交通	阪急電車／阪神電車／鉄道バス等の交通の記録／月見里公園のS L
個別のもの	上ヶ原に残る分水樋とそこに至る水路／鳴尾義民碑／水争い、広田神社近くの兎籠底績碑など／岡本家（瓦林）／武庫川にある水位計
眺望	阪神高速湾岸線から見える景色（夙川橋から甲山）／（西宮港大橋から今津港）／（鳴尾橋から鳴尾川河口）／黒川古文化研究所から見る大阪湾・大阪平野の眺望／甲山八十八カ所から見る甲山と神呪寺方面の絵／甲山からの眺め／展望台
その他	酒造関係／地産農産品／歴史的な地名

## 第3章 西宮市の歴史文化の特徴

西宮市は、六甲山地をはさむ北側盆地（北部）と南側丘陵地・平野（南部）からなり、それぞれ自然環境に適応した多彩な産業や文化が発展してきました。海から山にかけて南北に長く延びる市域の形成史からは、旧町村ごとにまとまりが見られ、多彩な歴史、特色ある文化財が伝えられています。西宮市の概要、文化財の概要から、本市の歴史文化の特徴を以下の4つでとらえることができます。

表5 西宮市の歴史文化の特徴

	内容	例
まちと往来 行き交うひととの	西宮は京・大坂から西国へ向かう交通の要衝として、早くから人とものが行き交う場所でした。	西国街道 有馬街道 宿駅など
ものづくり 地域をささえるものづくり	西宮では、全国に知られる酒造りや、江戸時代「名塩千軒」と称された名塩の製紙など、多様な自然環境を生かした「ものづくり」が行われ、現在も受け継がれています。	酒造 和紙など
近代化の足跡	大阪と神戸の間に位置する西宮は、近代化の中で大きく変貌をとげ、その足跡は現在の西宮市がめざす「文教住宅都市」としてのまちづくりにつながっています。	ヴォーリス建築 甲子園周辺など
六甲山と大阪湾をめぐる石の文化	六甲山麓に位置する古墳や大坂城石垣石丁場跡東六甲石丁場跡、大阪湾に隣接する西宮砲台など、西宮市内には巨石あるいは巨石が組上げられた遺跡が数多く所在します。	石垣石丁場跡、刻印石、古墳石室、西宮砲台など

### 1. まちと往来（行き交うひととの）

西宮は京・大阪から西国へ向かう交通の要衝として、早くからひととものが行き交う場所でした。なかでも、まちとして発展を遂げた西宮、街道とともにあった宿駅生瀬はその代表として取り上げることができます。

#### (1) 千年つづくまち・にしのみや

西宮神社には、平安時代末、鳴尾の漁師が海から引き上げて祀っていた「えべっさん」を託宣により、御輿屋伝承地を経て現在の社地に祀った、という鎮座伝承があります。また、もとは広田神社の別宮である南宮の近くに戎神を別に祀った神社に起源があるともいい、江戸時代以前には広田神社と一体の管理運営形態で神職は両社を兼帯していました。広田社は、平安時代末にししばし開催された歌合せの舞台になりますが、そこでは広田社が「西宮」と称されることもあり、御手洗川を介して南北に位置する広田神社（広田社）と西宮神社（戎社）とは関連が強い神社でした。

近世の西国街道は京から淀川右岸を下り、旧西宮町東端「角之橋」で、大坂から尼崎を経て西に向かう中国街道と合流して、西宮神社表大門（赤門）に突き当たります。西国街道は、西宮神社を南に迂回し、西国へ向かいます。西宮神社からこの本町通りに沿った東西約800m南北約250mの細長い場所に、旧西宮町（西宮本町遺跡）があります。東西に細長い遺跡は、標高差1～2mの高まりが細長く連なった砂州上に立地し、中国街道はこの砂州の最高所を選ぶようになっています。



西宮神社社頭遺跡は、平安時代末から中世・近世・近代へと継続された集落跡で、出土遺物の年代と出土地点から、平安時代末に西宮神社門前付近に始まり、その後、砂州が東へ発達するにしたがって集落も東に拡大したことがわかります。遺物には輸入陶磁器が少なからず含まれていることから、旧西宮町は一般農村や漁村ではなく、経済都市としての側面が強かったと考えられます。西宮神社社頭遺跡よりもさらに時代が古く、奈良時代・平安時代の官衙跡、古墳時代の大規模集落跡として、東方約2kmの津門大塚町遺跡やその北方の高畑町遺跡があり、西宮南部地域の拠点集落となる大規模遺跡が移動しながら現在の西宮市街の骨格を形成していったと見ることもでき、先の西宮神社の鎮座伝承と合わせて、「旧西宮町」の形成史として興味深いものとなっています。

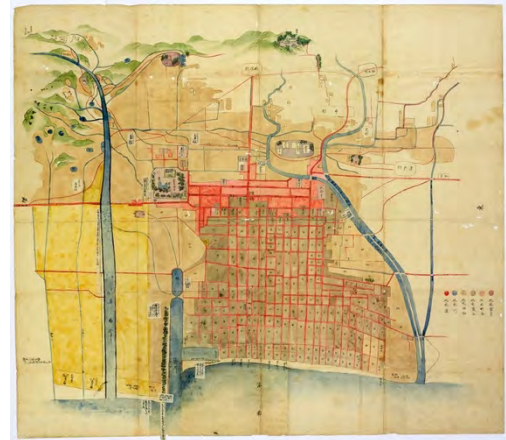


図 31 西宮町浜絵図 (西宮市立郷土資料館)

## (2) 街道と宿駅 (生瀬宿)

本市の北部、町の中心を貫く街道を核に発達した、道の町、生瀬。その起源は鎌倉時代の初め、平家の残党が武庫川に面した地に成した小集落であったと、町の人びとに語り継がれています。彼らは有馬入湯に向かう途上の証空善恵に導かれ、武庫川に橋を架けて旅人の助けとなり、その志を受けて渡世するようになったといわれています。証空はこの地に浄橋寺を創建し、七堂伽藍を整えました。数度の火災に遭いながらも、勅願寺として信仰を集め、市内有数の指定文化財所在地として、多彩で豊富な文化財を伝えています。現在は地域の人びとに守られ、浄橋寺自衛消防隊による消防訓練は冬の恒例となっています。浄橋寺の文化財はまた、宿駅としての生瀬の歴史を伝えています。有馬街道の要衝であった生瀬は、江戸幕府の公用を担う宿駅に指定され、継立の人馬や休泊施設を提供しました。生瀬の人びとは「馬借村」を称し、運送業が生活を支える糧となりました。明治時代以降、鉄道の敷設により地域の様相は一変しましたが、道の町・生瀬の歴史は伝承・古文書・まち並みなどの中に、現在も色濃く残っています。

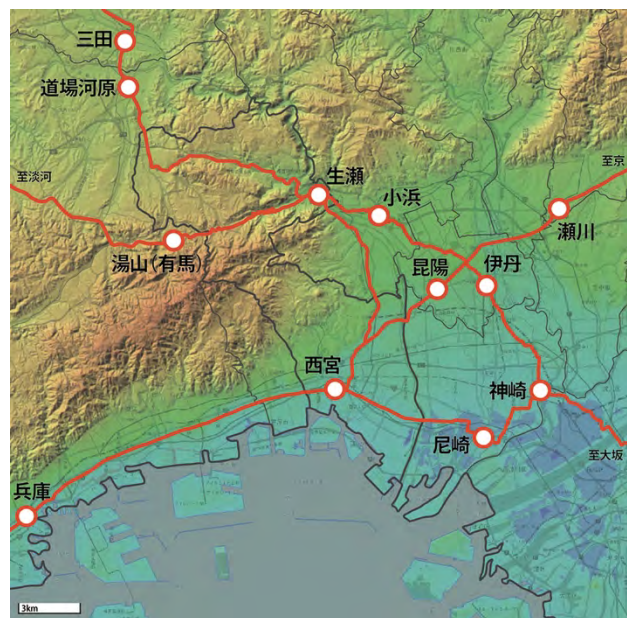


図 32 主要街道・宿駅図

## 2. ものづくり（地域をささえてきたものづくり）

西宮では、多様な自然環境を生かした「ものづくり」が行われ、現在も受け継がれています。

### （1）西宮の酒造りと下り酒の隆盛

鎌倉時代的一条兼良選とされる「尺素往来」に「西宮の旨酒」と記されるように、西宮は早くから酒どころとして知られていましたが、江戸時代になると江戸積み酒の酒造りで隆盛を迎え、現在の灘五郷につながる酒造りが行われています。

江戸積み下り酒をテーマとしたストーリー「伊丹諸白と灘の生一本 下り酒が生んだ名醸地、伊丹と灘五郷」が、令和2年度日本遺産として認定されました。

「江戸時代、伊丹・西宮・灘の酒造家たちは、優れた技術、良質な米と水、酒輸送専用の樽廻船によって「下り酒」と賞賛された上質の酒を江戸へ届け、清酒のスタンダードを築きました。酒造家たちの技術革新への情熱は、伝統ある酒蔵としての矜持と進取の気風を生み、「阪神間」の文化を育みました。六甲山の風土と人に恵まれたこの地では、水を守る人、米を育てる人、祭りに集う人、蔵開きを楽しむ人が共にあり、400年の伝統と革新の清酒が造られています。



図 33 今津灯台



図 34 新酒番船入津繁栄図（部分）

### （2）名塩御坊と名塩紙

浄土真宗第8世蓮如が創建した教行寺の眼下、谷合を流れる名塩川沿いに広がる紙すきの里、名塩。江戸時代には「名塩千軒」と称されるほど一大産業であった製紙の技術は、今なおこの地域の伝統と誇りとして守り伝えられています。紙祖東山弥右衛門により越前から名塩に製紙の技術がもたらされたといわれ、春3月の慰霊祭で紙祖の徳を称えています。

箔打紙の原紙や文化財の修復に欠かせない名塩の紙は、主原料の雁皮に細かく砕いた地元産の岩石を加えることにより、日焼けや虫食いのない丈夫な紙となり、江戸時代には藩札の原紙として使用されました。

名塩のニュータウンと旧村落を結ぶ国道176号。その道沿いに教行寺までの丁数を刻む道標が建ち、「名塩御坊」と称される蓮如の旧跡へ誘います。村民たちが蓮如を招聘し結ばれた草庵から始まったとされる教行寺の住持は、蓮如の子蓮芸の子孫が代々務め、地元の領主からの厚い保護を受け名塩地域の中心的存在となりました。

名塩製紙業による経済的な発展は、江戸時代後期の名塩蘭学塾の開設として結実します。億川百記の娘八重は蘭学医緒方洪庵に嫁ぎ、洪庵門下の伊藤慎蔵により名塩蘭学塾が設けられました。このことは、のちにアドレナリンの製造開発に尽力した



図 35 名塩紙

上中啓三を生む素地ともなりました。紙すきと医学のまち名塩は、伝統と文化を継承しています。

### 3. 近代化の足跡

大阪と神戸の間に位置する西宮は、近代化の中で娯楽施設・住宅地の開発などにより大きく変貌をとげました。甲子園球場の所在する「甲子園」地域の成立や、市内の住宅地の成立過程、現存する近代建築などに見られる近代化の足跡は、現在の本市がめざす「文教住宅都市」としてのまちづくりにつながっています。

#### (1) 「甲子園」の成立（武庫川・鳴尾・甲子園）

現在、本市の東端、武庫川をはさんで尼崎市と境を接している鳴尾は、本市と合併する昭和26年（1951）までは武庫郡鳴尾村で武庫川と枝川・申川にはさまれた地域を指しました。

明治38年（1905）武庫郡鳴尾村の辰馬半右衛門が、武庫川右岸沿い1.5haに遊園地・百花園をひらき、名物・鳴尾のいちごを紹介しました。鳴尾における郊外生活文化の嚆矢です。その後、大正15年、阪神電鉄は、百花園と堤防にはさまれた武庫川河川敷に武庫川遊園を開設しました。明治40年、関西競馬倶楽部、鳴尾速歩競馬場が設立され、同年、鳴尾村本郷西浜に関西競馬場競馬倶楽部競馬場が竣工しました。翌年、鳴尾村本郷東浜に鳴尾速歩競馬会競馬場が建設されましたが、まもなく閉鎖され、大正3年（1914）にはゴルフ場となりました。関西競馬倶楽部競馬場は、明治44年以降、曲芸飛行などのアトラクション会場として利用され、大正5年からは阪神電鉄が場内に鳴尾運動場を経営して、第3回から第9回までの全国中等学校優勝野球大会などが開催されました。明治43年、関西競馬倶楽部と鳴尾速歩競馬会は合同して阪神競馬倶楽部となり、有志による競馬や商品券競馬が開催されました。昭和12年（1937）、関西競馬倶楽部競馬場は、日本競馬会阪神競馬場と改称し、競馬開催を続けましたが、戦時下の昭和18年、海軍に引き渡され、鳴尾の競馬は姿を消しました。

一方、鳴尾の郊外住宅地としての開発は、明治43年、阪神電鉄が鳴尾村西畑（現甲子園駅付近）に文化住宅70戸を建設したことにはじまり、やがて甲子園地域へ発展していきます。

まちとしての「甲子園」は、枝川・申川から生まれました。武庫川の治水は兵庫県にとって懸案事業で、大正期に入る頃から、治水対策として枝川・申川を廃川とし、廃川敷地の売却によって治水工事の資金調達と利得金を阪神国道（国道2号）改修工事に充当する計画が提出されました。その結果、武庫川改修によって得られた土地は、大正12年（1923）、阪神電鉄に売却され、その後の開発により、阪神間では初めてのスポーツ施設群を開発の核としたことなどにより、「甲子園」はスポーツセンターとして、また郊外住宅地として名声を高めていきました。



図 36 西宮市鳥瞰図（昭和11年 吉田初三郎）

## (2) 西宮の近代建築と「文教住宅都市」

明治7年(1874)大阪神戸間鉄道、明治38年阪神電鉄、大正9年(1920)阪急電鉄神戸線が当地方を東西に貫き、西宮や今津といった町のほか、周囲に広がる農村地帯も大きく変貌を遂げました。特に大都市大阪近郊の「郊外」として認識され、産業の発達により新たに形成された富裕層に対して「健康」をキーワードに郊外型の余暇＝「郊外生活」を提供することが盛んになり、娯楽の提供からやがて優良住宅地の提供の場となっていきました。特に「香櫨園」「苦楽園」「甲陽園」「甲子園」「甲東園」などは、その代表例として知られています。

そこで育まれた文化は、教育、交通、住居などでも新しい様式を積極的に取り入れつつ地域の特徴・良さが共生する「西宮らしさ」の基盤となり、本市が目指すまちづくり「文教住宅都市」の根幹につながっています。市内には明治の旧辰馬喜十郎住宅や松山大学温山記念館、旧山本家住宅等の住宅建築、W. M. ヴォーリズによる神戸女学院大学や関西学院大学などの学校建築、武庫川女子大学甲子園会館(旧甲子園ホテル)や武庫大橋等、時代を彩る多数の近代建築・近代化遺産が周辺の良好な景観と共に受け継がれています。



図 37 旧辰馬喜十郎住宅



図 38 神戸女学院中庭

## 4. 六甲山と大阪湾をめぐる石の文化

六甲山麓に位置する古墳や大坂城石垣石丁場跡東六甲石丁場跡、大阪湾に隣接する西宮砲台など、本市内には巨石あるいは巨石がくみ上げられた遺跡が数多く所在します。

### (1) 古墳が語る西宮の古代前史

本市内には、多数の古墳の所在が知られています。それらはいずれも古墳時代後期(6世紀～7世紀)の円墳で、花崗岩で構築された横穴式石室を内蔵しています。それらよりも古い時代の前方後円墳がかつては本市内にあったことも分かっています。

前方後円墳は、古墳時代の近畿地方に中心を置く政治的な勢力の体制(ヤマト政権などと呼ばれます)に組み入れられている集団の長の墓ではないか、と考えられている種類の古墳で、地方ではその頂点に立つ人物が葬られた古墳であると考えられています。

市内にあった前方後円墳のうち、最も古い時代のものは、津門稲荷町にあった津門稲荷山古墳です。出土した円筒埴輪から見て、古墳が築造された年代を5世紀とすることができます。この年代は、古墳の北方にあって大量の農具などが見つかった高畑町遺跡と同時代であることから、5世紀の農業経営の拠点が北方の沖積平野に、同時代の古墳が南方の海浜にあったことがわかります。

津門稲荷山古墳の西方には同じく前方後円墳である津門大塚山古墳がありました。今も津門神社に残る大きな石碑がその古墳の石室の一部だとすると、古墳の内部には横穴式石室を有してい

たとえられることから、6世紀に築造された古墳である可能性が大きくなります。すると、5世紀の津門稻荷山古墳に続き50年～100年の時間差で津門大塚山古墳が近接して造られたことになり、古墳時代の西宮地方の首長墓の系譜上にある古墳として、この両古墳をとらえることができそうです。

両古墳に続く前方後円墳に、上ヶ原台地にあった上ヶ原車塚古墳があります。近世・近代の記録から、古墳は巨石で構築された大型の横穴式石室を内蔵する前方後円墳であったと推定できます。上ヶ原車塚古墳は、その特徴から、先の津門大塚山古墳と同時期かそれ以降の築造であると考えることができ、前方後円墳としては最終末期の年代にあたります。

西宮地方最後の前方後円墳、上ヶ原車塚古墳からあまり時間を置くことなく具足塚古墳が築造されました。具足塚古墳は6世紀後半に築造された横穴式石室を内蔵する円墳です。石室から市内では類を見ない大量の副葬品が出土しました。具足塚古墳は、6世紀後半期の当地方においては、最上位の規模と副葬品の内容を持つ古墳で、古墳が立地する上ヶ原台地とそれに続く丘陵地を背景に、古墳眼下の沖積平野を掌握した、地方首長墓であると考えられます。海浜部・津門地域の津門稻荷山古墳・津門大塚山古墳と、上ヶ原台地上の上ヶ原車塚古墳・具足塚古墳は、築造場所が離れているため、それぞれの被葬者が同じグループ出身の支配層集団に属しない可能性もありますが、いずれの古墳も、のちに武庫郡と呼ばれる地域を支配した地方首長の墓として築造された古墳であると考えられます。

具足塚古墳に続く、6世紀末から7世紀中頃までの大形の横穴式石室古墳には、仁川五ヶ山古墳群第2号墳など複数の古墳があります。それらの古墳は同時期に形成されたそれぞれの古墳群に含まれる古墳です。いずれも、具足塚古墳のような武庫郡地方全体を掌握する地方首長墓ではなく、より狭い範囲・小さな集団を背景とした代表者の墓と考えられます。ここに、津門稻荷山古墳から150年以上続いた地方首長墓の系譜は途絶えます。6世紀末から7世紀中頃にかけての時期は、当地方の支配のあり方の転換期である、という可能性を指摘することができます。



図 39 銅戈 (甲山出土)



図 40 具足塚古墳出土須恵器



図 41 関西学院構内古墳石室

## (2) 花崗岩の採石場跡と大坂城再築

元和元年(1615)大坂夏の陣で豊臣氏は滅亡しました。この時、天正11年(1583)に豊臣秀吉が築城した大坂城も焼け落ちました。幕府は、元和5年(1619)には大坂藩を廃して直轄領とし、翌元和6年(1620)に将軍徳川秀忠は大坂城の再築を命じ、寛永6年(1629)にいわゆる「徳川大坂城」が完成しました。この大坂城は、慶長11年(1606)に成っていた江戸城とともに将軍が城主である城で、幕府直轄の「公儀普請」により再築された巨大城郭です。

大坂城は天守をはじめとしてほとんどの建物は失われていますが、今に残る大きな石垣は建設当時の壮麗な城郭を偲ばせます。この石垣には、花崗岩を産出する瀬戸内海一帯の石丁場の石材が使用されていて、石材の切り出し、運搬、石垣の築成までの「石垣普請」には、幕府から命じられた西国大名が携わりました。大坂城の石垣は、精緻に規格化・整形された良質の花崗岩の巨石を石切丁場から大坂城の石積み丁場へ運び、巨大な石垣を短期間で積み上げていく高度な石垣石積み技術の頂点に位置するもので、国史跡となっている香川県小豆島や本市の石切丁場跡、瀬戸内地方に広く分布する石切丁場跡及び石積み丁場である特別史跡大坂城跡を合わせて、近世初頭における巨大な石垣建設の技術と文化を今日に伝えています。



図 42 刻印石



図 43 石丁場跡付近航空写真

### (3) 幕末の騒乱と大阪湾防備（西宮砲台と今津砲台）

江戸幕府が開かれてから 250 年。いわゆる幕藩体制は、経済や外交、軍事の側面から形となって変容、崩壊していきませんが、それらと呼応するように市井の人びとの群衆運動が活発になりました。史跡西宮砲台は、天皇の居所京都への水上経路・淀川へつながる大阪湾を守る「大阪湾防備」の一環として、軍艦奉行勝海舟の建議により建造された石堡塔付き台場 4 力所のうちの 1 力所です。各所に伝わる建造記録や遺構などから知られる、西宮砲台と同様の設計による台場は、幕府直轄領兵庫（津）の東西にあたる神戸市の湊川砲台（滅失）と和田岬砲台〔国指定〕、同じく直轄領西宮（港）の東西に位置する本市の今津砲台（滅失）とこの西宮砲台の 4 力所です。また、そのほか、大阪湾沿岸には、舞子砲台や堺砲台、淀川沿いの楠葉砲台などが遺構として現存しており、外国の圧力が強まり、当時の朝廷、幕府、薩長などの諸勢力が覇権を争って内戦の危機のなかで建造された軍事的な記念物として、我が国の近世史・近代史を語る上で欠かせないものとなっています。

また、政治・軍事上の混乱と相前後して波動的に発生した人びとの群衆行動に、おかげ参り、おかげ踊り、ええじゃないか、などがありますが、「越木岩神社のおかげ踊り図絵馬」は天保 2 年（1831）に盛行したおかげ踊りを神社に奉納する様子を描写した絵馬で、類例は尼崎市のほか、兵庫県内では播磨地方に多く遺例があるなど、本市だけにとどまらない歴史的な意義を有する文化財です。



図 44 西宮砲台



図 45 旧今津砲台記念石